

意見広告

文科省は、「教育の機会均等や教育水準の確保のため、学習到達度をきめ細かく把握し、各学校での指導や教育施策の改善につなげる調査であり、序列・競争を煽るものではない」として、学年全員を対象にした学力調査としては、43年ぶりに実施しました。昨年の実施には、なんと、77億もの巨額の費用をかけて、民間の会社に採点等を依頼しました。

結果の公表以降は、都道府県別ランキングなど競争や序列化の問題が起りました。

全国各地で起きた問題

- 学校独自の模擬テストを作り、数度にわたる本番テスト練習、課題プリント作成が行われた学校があった。
- 「学力テスト予想問題集」を学校が購入、該当学年に配布された。
- 全国学力調査に向けての授業や問題練習が前日まで続いた。
- 朝自習の時間を4月のテスト前まで対策学習にあてさせる。対策用学習ワークを購入。
- 外国籍の子どもに対して配慮が十分でない。
- 学力の低い子どもが当日欠席した。重荷に感じる子どももたくさんいる。
- 塾などで、問題慣れしている子はよいが、そうでない子どもが多いので、子どもは苦労していた。

このような学校が、県内各地域に広がってきています。

日弁連も、学力調査をサンプル調査のように求める意見書を文科大臣に提出し、改善を求めています。

私たちは、子どもにとって意味のある学びを大切にしたい!

- 悉皆調査(全員を対象とした調査)は、学校間・地域間の競争を生むことにつながり、序列化が進みます!
- 子どもを点数・順位で競い合わせるのではなく、一人ひとりの子どもの学習意欲や学力保障が大切です!
- 莫大な費用をかけることより、30人以下学級の実現や一人ひとりの子どもにきめ細やかに指導できる教職員定数増などの教育条件整備を急ぐことが先ではありませんか!

鹿児島県教職員組合 鹿児島市山下町4-18
TEL099-223-8345

子どもたちの声から

(昨年実施後に県内で行ったアンケート調査から)

- 1日4時間も連続でテストがあり、いやだった!
- どうして、自分たちだけこんなにテストが続くの?
- 記述式のテストになれてないものがあり、かなり疲れた。

テスト! テスト! に追いまかれる子どもたち

※県内のある小学校6年生の例:

5年生の1月に本県独自の基礎基本定期調査、1月末に市販の学力テスト、6年生進級後すぐ、市販の学力テスト、そして、全国一斉学力テストとわずかな数ヶ月の間に、4回ものテストを受けている実態があります。

※県内のある中学校3年生の例:

定期テスト4回+実力テスト4回+市販の学力テスト1回、年間9回のテストに、全国一斉学力テストまで実施

60億円もかけて 全国一斉学力テスト (全国学力・ 学習状況調査)を 実施する必要がある ありますか!